

「どうぶつ基金病院ぎ岐阜」が閉院

4056匹の猫に不妊・去勢

大や猫の殺処分ゼロを
 目指す兵庫県の動物愛護
 団体「どうぶつ基金」(佐
 上邦久理事長)が運営す
 る「どうぶつ基金病院ぎ

岐阜」は先月19日、目標
 数を達成したとして閉院
 式を開き、事業の終了を
 宣言した。同病院は、市
 の人口から推計される約



佐上理事長(左)と藤原市長(右)

3千匹の猫の
 不妊・去勢を
 目標に、無料
 で野良猫や多

頭飼育崩壊の飼い猫の繁
 殖抑制に取り組んできた。

閉院式には、藤原一生
 市長をはじめぎ岐阜保健

所、市内の動物保護団
 体「ぎ岐阜わんにゃんお
 守り隊299」などが出
 席し、藤原市長から佐上
 理事長へ感謝状が贈られ
 た。

本報は大猫の殺処分
 数・殺処分率ともに全国
 でも高い水準にあり、本
 市も県内で処分数の多い
 自治体の一つだった。野
 良猫の捕獲、不妊・去勢
 手術、元の場所へ戻す取
 り組み(TNR)は、市
 内に動物病院が2件しか
 ないことから重荷体制に
 限界があった。
 こうした状況を受け、

同病院は2024年9月、
 芦辺町の旧しんぎよれん
 施設に開院。開院前の
 2023年からの活動も
 含め、市内の猫4056
 匹に不妊・去勢手術を実
 施し、目標の3千匹を大
 きく上回った。

佐上理事長は「ほぼ
 100%に近い達成だ
 が、わずか1年でこれだ
 らば3年後には再び3千匹
 規模に増える可能性があ
 る。今後も不妊・去勢を
 継続することが重要」と
 した上で、「引き続き福
 岡市で手術が受けられる
 無料子ケットを配布した
 い。猫に優しい県であっ
 てほしい」と話した。
 藤原市長は「人と猫が
 共生できる取り組みだっ
 た。再び元の水準に戻ら
 ないよう、行政としても
 活動の継続を支援した
 い」と述べた。